

## (案)地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 見附市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通(株)	<p>コミュニティバス (おはようライナー)※補助対象外 (A直行)※補助対象外 (B通常) (B2通常名木野ルート)</p> <p>【運行期間R2.10.1～R3.9.30】</p>	<p>①コミュニティバスの効率的な運行を行うため、R3年4月のダイヤ改正では、利用者が多い朝夕のコアタイムの運行を増便し、20分間隔での運行を実現した(従来は30分間隔)。</p> <p>②利用者にとって分かりやすい情報提供を行うため、従来の時刻表の他、携帯版時刻表を作成した。またGTFSデータの作成を通して、時刻表をgooglemapやジョルダンに反映し、利用者がインターネットで経路検索できるよう整備した。</p> <p>③普段公共交通を利用しない人への、利用促進を目的としたモビリティマネジメントの取組みとして、市内アート美術教室に通う子どもたちや、市内小学生の作品を車内掲示し、乗車のきっかけ作りを行った(2回)。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>コミュニティバス利用者 ・実績164,630人 ・前年167,243人</p> <p>※目標達成率84.4%、対前年比98.4%(計画目標数は195,000人)</p> <p>①上記による利用者実績は対前年比98.4%であるが、前年には新型コロナウイルスによる利用者減の影響を受けていない前年R1.10～R2.2月の実績も含まれている。影響を受けた期間に限定すれば、R3.3月～9月は前年同月比較で108%となり増加傾向となった。そのことから、コミュニティバスの効率的な運行のため実施した施策は効果的であったと判断し、利便性向上の目標は概ね達成できたものとする。</p> <p>②計画通り、分かりやすい情報提供に努めた。</p> <p>③計画通り、普段公共交通を利用しない人への、利用促進につとめた。</p> <p style="text-align: center;">B</p>	<p>・利用者目標184,000人(地域公共交通計画の目標数)</p> <p>①公共交通計画により明らかとなった交通空白地域解消に向けた運行ルートの見直し。</p> <p>②モビリティマネジメントの推進。普段公共交通を利用しない人への、利用促進を行う。</p>

## (案)事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	見附市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>見附市は新潟県の中心に位置し、面積77.91Km<sup>2</sup>、人口約41,000人の小規模な市である。近年ではマイカー中心のライフスタイルが進み、公共交通(特に路線バス)の利用者が年々減少しており、バス路線の廃止、減便が行われることで自動車の運転ができない学生や高齢者の移動において利便性が低下してきている。</p> <p>市ではコミュニティバスが交通結節点を経由し、地域間幹線系統であるJRや路線バス等と接続することで、地域公共交通網の整備を進め、住民が自由に移動できる環境を整えることとしている。また、コミュニティバスのルート上に市の主要施設を配置し、都市機能のコンパクト化を図る事で、外出しやすい状況を生み出すとともに、地域間交流を促し住民の健康増進にもつなげるものとする。</p>